

## JP117 琵琶湖 (びわこ)

滋賀県：長浜市、米原市、彦根市、東近江市、近江八幡市、野洲市、守山市、草津市、大津市、高島市

位置	N 35° 15′ E 136° 05′
面積	72,224ha

### 環境構成【湖沼】

滋賀県の面積の6分の1（670k m<sup>2</sup>）を占める日本最大の湖であり、ほぼ県全域を集水域に含む。琵琶湖大橋を境に北湖（面積613k m<sup>2</sup>、平均水深43m）と南湖（面積57k m<sup>2</sup>、平均水深4m）に分かれるほか、周囲に内湖と呼ばれる浅い沼沢地が点在し、相互につながりをもった生物の住み場所となっている。環境要素は深く広大な沖帯と浅い沿岸帯に分かれ、沿岸帯はヨシ群落などの水生植物帯、砂浜帯、岩礁帯、人工護岸など多様である。周囲の環境も農耕地、森林、都市などと多様で、大小合わせて約460本の河川が流入し、大きな安曇川、姉川、愛知川、野洲川の河口には砂州が発達している。湖内には5つの島（沖島、竹生島、多景島、沖の白石および人工の帰帆島）がある。選定理由のカモ類は冬期に主に沿岸帯を利用し、岸から沖合い1～2kmまでの比較的浅い水域に多く、特に沿岸にヨシなどの水生植物帯が発達した水域に集中した分布が見られる。周囲の内湖もカモ類にとって重要な生息場所である。



写真提供：森田尚

### 選定理由

A4i	ヨシガモ・ヒドリガモ・ホシハジロ・キンクロハジロ
A4iii	カモ類

### 保護指定

サイトの全域（90%以上）に法的な担保がある

<保護指定の内容>

国定公園（琵琶湖国定公園）、自然環境保全地域

<その他>

ラムサール条約登録湿地、東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ参加地

## 保全への脅威

- ・人口増加や産業活動の増加に伴う湖への汚濁負荷の増加と水質の変化
- ・過去に行われた内湖干拓、ヨシ群落の埋め立てと湖岸堤の建設による湖内生態系の変化
- ・河川からの砂供給減少などにもなう湖岸侵食、ヨシ群落の衰退
- ・林業の衰退に伴う集水域の森林荒廃
- ・地球温暖化に伴う湖水温の緩やかな上昇、冬～春季の全循環への影響を通じた深層部への影響
- ・梅雨や台風時の大雨に伴う水位の自然上昇と洪水調整のための人為的な水位操作による急激な水位の変動
- ・外来種の影響（オオクチバス、ブルーギル、ミシシッピーアカミミガメ、オオカナダモ、コカナダモ、オオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウ、オオフサモ、アゾラ等）
- ・琵琶湖南湖における沈水植物の過剰な繁茂とそれに伴う底層の貧酸素化による魚類、底生動物の生息環境の悪化。（汚濁負荷削減対策が実行され、湖の透明度は上昇しているが、人為的富栄養化が進行した過去の時代に湖底に蓄積した栄養塩は残っており、沈水植物が過剰繁茂しやすい条件になっている。過剰繁茂した沈水植物は水流を停滞させ、底層の貧酸素化、底質の泥化を引き起こしている。）
- ・南湖周辺部での都市化に伴う農地、ため池等の宅地化
- ・マナーの悪い野鳥カメラマンの増加
- ・釣り人による釣針、釣糸の放置
- ・水上バイクやバス釣り、水上スキー、ウィンドサーフィン、カヌー、超軽量飛行機、エンジン付パラグライダー等のレジャーの増加

## 鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化  
変わらない
- ＊選定基準種のヨシガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロの個体数は、種類ごとに異なる年変動があり、一概に増加、減少しているとは言えないため、「変わらない」としたが、選定基準種外ではオオバンの個体数が大幅に増加している。
- ・IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有  
＜調査データの入手方法＞  
滋賀県自然環境保全課、日本野鳥の会滋賀
- ・IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：  
変化はない
- ・IBA 選定基準種の生息環境：  
普通（70～90%が最適の状態）
- ・IBA エリアの保全管理計画の有無：有

## 保全活動

- ・環境管理：実施者（県、財団法人、漁業者の活動組織等）  
内容：過剰繁茂した沈水植物の刈り取り  
琵琶湖自然再生事業（ヨシ群落・砂浜再生）（滋賀県）
- ・外来種のコントロール：実施者（県、漁業者の活動組織、環境 NPO 等）  
内容：オオクチバス、ブルーギル、オオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウの駆除
- ・環境教育活動：実施者（県、市町、独立行政法人、環境 NPO、日本野鳥の会等）  
内容：小学校での環境学習、自然観察会、探鳥会の開催等、各主体がそれぞれに多数開催している
- ・保全のための人材育成活動：実施者（県）  
内容：マザーレイクフォーラム「びわコミ会議」
- ・法律制定、政策、規制：実施者（国、県）  
琵琶湖の保全及び再生に関する特別措置法が 2015 年 9 月 16 日に成立  
マザーレイク 21 計画（琵琶湖総合保全整備計画）を 2000 年 3 月に策定
- ・モニタリング調査：  
内容：ガンカモ類等生息状況調査（滋賀県）  
琵琶湖、内湖、溜池等の一斉水鳥調査（日本野鳥の会滋賀）

## IBA サイトの保全に関する地域のグループ

- ・日本野鳥の会滋賀

## 見られる鳥

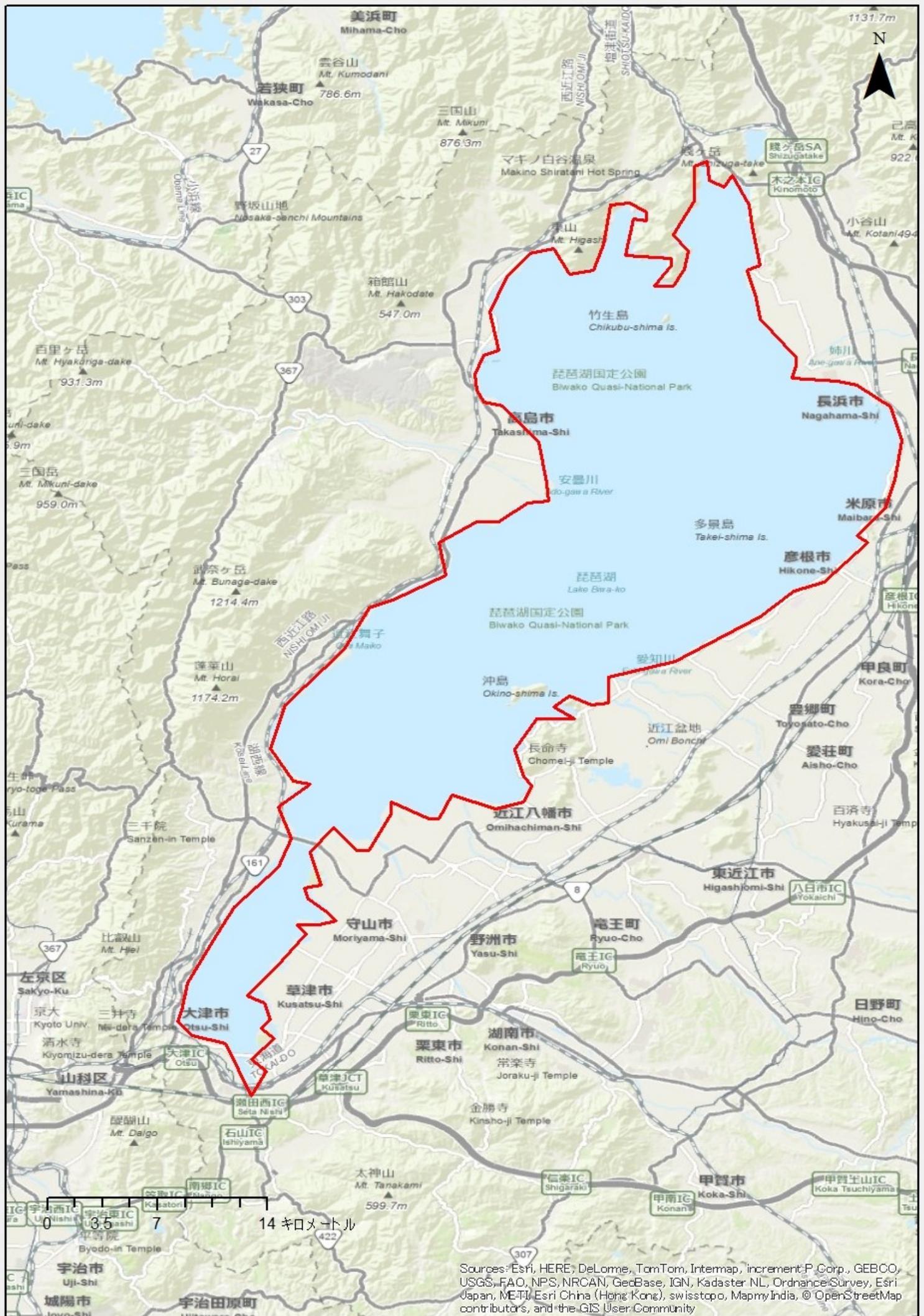
冬期にカモ類を中心に水鳥が多数飛来するほかワシタカ類も多く飛来する。春から夏の繁殖期には沿岸の水生植物帯でカイツブリ科、サギ科、カルガモ、クイナ科の水鳥類やオオヨシキリ、竹生島と伊崎半島にはカワウの大規模なコロニーが形成される。

留鳥	カイツブリ、カンムリカイツブリ(大部分は冬鳥)、カワウ、サンカノゴイ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、オシドリ、マガモ、カルガモ、ミサゴ、トビ、オオタカ、ハヤブサ、バン、オオバン(大部分は冬鳥)、ケリ、イソシギ、カワセミ、アカゲラ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
夏鳥	ヨシゴイ、ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、ヒクイナ、コチドリ、コアジサシ、ツバメ、コシアカツバメ、オオヨシキリ

冬鳥	アビ、オオハム、シロエリオオハム、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、アカエリカイツブリ、マガン、オオヒシクイ、コハクチョウ、コガモ、トモエガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、オナガガモ、ハシビロガモ、アカハシハジロ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、ウミアイサ、カワアイサ、オジロワシ、オオワシ、ハイタカ、ノスリ、ハイイロチュウヒ、チュウヒ、コチョウゲンボウ、チョウゲンボウ、クイナ、タゲリ、ハマシギ、クサシギ、タシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、カモメ、ウミネコ、ズグロカモメ、アリスイ、ビンズイ、タヒバリ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、キクイタダキ、ツリスガラ、ホオアカ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、オオジュリン、ベニマシコ、シメ
旅鳥	オオミズナギドリ、シマアジ、シロチドリ、メダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、ヒバリシギ、オジロトウネン、ウズラシギ、オバシギ、エリマキシギ、ツルシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、タカブシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、アジサシ、ショウドウツバメ、ノゴマ、ノビタキ、マミチャジナイ、コヨシキリ、メボソムシクイ、エゾムシクイ、エゾビタキ、ノジコ、コムクドリ

#### 関連団体・自治体・施設等

- ・日本野鳥の会滋賀
- ・琵琶湖水鳥・湿地センター
- ・湖北野鳥センター



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intemap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeBCO, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, Mapny India, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community